

健康と光線

温熱療法の

熱源と治療法

温熱療法で利用される熱源には、輻射線（赤外線）が物体に吸収されて熱に変わる輻射熱、物体の熱が高温部から低温部へ移動する伝導熱、液体や気体のような物体の熱が移動する対流熱があり、治療法は局所温熱療法と全身温熱療法に大別されます。

サナモア光線療法の熱源は、太陽光線と同じで透過力がある近赤外線領域の輻射線が身体の深部で吸収されて生じる輻射熱が主ですが、皮膚で生じる熱も伝導熱として作用します。そのため身体を芯から気持ち良く温め、リラクセスできます。

治療法については、家庭で一台の治療器で行う場合は局所温熱療法が主体になりますが、全身に照射する基本照射を併用することで全身温熱療法に準じた

効果が期待できます。なお治療院で用いている密閉された空間内で多灯照射するルーフ式マルチアーク療法（全身温熱療法）

サナモア光線療法の温熱作用について

—ルーフ式マルチアーク療法—

サナモア光線協会 サナモア中央診療所

医学博士 宇都宮 光明

については後述します。

温熱療法の効果

温熱療法の効果として従前から利用されているのは、

- ①末梢循環の改善。②心拍出量の増大。③発汗促進。④新陳代謝の促進。⑤筋緊張弛緩。

⑥鎮痛効果。

などです。中でもよく知られている鎮痛効果は、患部の循環障

害が改善してもたらされるため、どんな痛みでも照射時間を延ばして掛ければ確かな効果が体験でき、回復機転を促し治療に至

発行所

〒153-0063

東京都目黒区目黒 4-6-18

サナモア光線協会

年4回発行

会費年500円

電話 東京 (03)

3793-5281

3712-5322

サナモア光線治療院の治療法

が起こり、生体防御作用がある熱ショック蛋白質の合成を著しく促進して、外来刺激に対する抵抗性を高め、自然免疫能を亢進させ、病気と大きく関わる蛋白質の異常を正常化するなど、治療面で極めて有用な作用があります。

サナモア光線治療院

サナモア光線治療院とサナモア関連の光線治療院では、ルー

—その4—

フ式マルチアーク療法と名付けた全身温熱療法を行っています。この治療法は密閉した空間内で四台から五台の治療器を一

斉に点灯して全身に約45分前後照射します。そのため十分な照射量が確保でき、また輻射熱、伝導熱に併せて空間内の対流熱を利用するため、血行は著しく促進し、大量に発汗して有害物質（ダイオキシンなど）の排泄を促し、鎮痛効果に関係するモノヒネ様物質の分泌を促し、免疫能を調整し、熱ショック蛋白質の合成を促進する等々、全身

を加温して高体温にするハイパーサーミア（加温療法）に準じた効果があります。

なおハイパーサーミアは、これまで悪性腫瘍細胞が細胞死（アポトーシス）を起こす体温の42℃まで上昇させることが主目標にされたため、医師の監視下で行われてきましたが、最近、断熱性の覆いをした閉鎖空間内で赤外線加温器を使用し、加温の目標値を39.5℃と低く設定して治療しても、悪性腫瘍だけでなく多くの疾患で治療効果を高めることが示唆されています。

おわりに

サナモア光線療法は太陽光線の全波長を放射する総合光線療法で、赤外線の温熱作用はその一部に過ぎません。その上、光線の作用については、これまで温熱作用がない紫外線の作用、例えばビタミンD生成のような光化学作用が重視されたため、温熱作用は軽視された観があります。しかし近年、光線療法の効果に温熱作用が相乗効果として関わっていることを示す新発見が相次ぎ、総合光線療法の有用性を裏付けていることを述べました。

一病息災 一病息災

糖尿病足病変

サナモア光線治療院

院長 医学博士 宇都宮 正範

病気の解説

糖尿病は生活習慣病の一つであり、慢性かつ進行性で、長期にわたり患者の日常生活の質を低下させます。そして糖尿病がやっかいな病気とされる所以は、罹病期間が長期にわたれば、さまざまな合併症を引き起こすという点にあります。三大合併症として知られる網膜症、腎症、神経障害ばかりでなく、白内障、心筋梗塞、下肢動脈硬化症などがあります。本症例のように、

糖尿病患者では足に潰瘍や壊疽を形成するケースが多く、足に見られる合併症を糖尿病足病変と総称しています。近年、このような糖尿病足病変は、糖尿病患者数の増加や罹病期間の長期化に伴い増加傾向にあり、一九九四年の米国の報告によれば、糖尿病足壊疽による下肢切断数は、非外傷性下肢切断の約50、60%を占めており、年間約6万例とされています。

糖尿病足病変は、足そのものの変化(内的要因)と外からの傷害(外的要因)が重なって発症します。内的要因としては、神経障害、血行障害、易感染性が重要であり、足趾の屈筋と伸筋のバランスが崩れて足や足趾が変形すると、局所の圧負荷が強くなって角化が進行し、これに血行障害が加わり皮膚や足を弱くして足の変形を助長します。また外的要因には、合わない靴を履くことによる足への圧負荷、爪切りなどによる切創、打撲による傷害、火傷などがあります。が、前述の内的要因と外的要因が重なった時に足趾の変形、爪・足趾の白癬菌症、巻き爪や爪周

囲炎、胼胝、潰瘍、壊疽などさまざまな足病変を引き起こすのです。このような糖尿病足病変に関しては、現代医学に決め手となる治療法はなく、大事なことは予防となります。自分で足趾をよく見て、清潔に保ち、足に合った靴を選ぶ、深爪はしないといった点に注意を払うことによって多くの糖尿病足病変は予防が可能です。

症 例：38歳、女性。
主 訴：両側の下腿側面に生じた表皮びらんと潰瘍。

起始・経過：約20年前に糖尿病と診断され、以来、食事療法と運動療法に加えインスリンを使用しているが、血糖コントロールは不良で、合併症として網膜症と神経障害を認める。約1か月前に両側の下腿側面にかゆみをとまなう湿疹ができ、自分でひっかいたところ、表皮が剥離し、径5cm程度のびらんと一部に潰瘍が生じた。近医皮膚科に通院し治療するも改善が見られないため、治療目的にて来院。

治 療：①側臥位にて20分、4灯照射。
腹部(BD)、腰部(BD)、膝(AB)、足裏(AB)。
②仰臥位にて30分、2灯照射。
右下腿側面(BD)、左下腿側面(BD)。

経 過：初回治療直後から大量の滲出液の分泌が見られ、痛みも軽減した。週に3回のペースで治療を継続したところ、3回目頃より、徐々にびらんの面積に縮小傾向がみられ、周囲の発赤、腫脹にも改善が認められた。さらに10回終了時にはびらんの面積は半分程度となり、治療開始から約2か月程度で、病変部はわずかな瘢痕を残して、ほぼ完治した。

病気と光線療法

糖尿病足病変は、重症化した場合には下肢切断となることもあり油断のならない病態です。サナモア光線療法には、内因性のインスリン分泌を促進する作用があり、高血糖状態を改善し血糖コントロールを良好に保つことから、血管系の合併症の予防効果が期待されます。とくに糖尿病足病変については、局所を清潔に保ち、感染症を予防し、傷害された組織の修復を促すという観点からもサナモア光線療法は最適な療法であり、治療法であると同時に予防法にもなるのです。

サ/ナ/モ/ア/便/り

vol.15

宇都宮 正範

三周年を迎えた
サナモア光線治療院

平成十二年九月に開院しまし

た治療院も、無事三周年を迎えることができました。この間、サナモア愛用者の方をはじめとして多くの方々にご来院頂き心より御礼申し上げます。これからもサナモア光線療法のルー形式マルチ・アーク療法を体験できる施設として、スタッフ一同、一層努力致しますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

第十五回

「光と熱研究会」のお知らせ

医療に関連した話題の講演や治験例の報告を中心とした研究会を開催していますので、一般のご愛用者の方も是非ご参加下さい。なお次回の研究会は、都合により平成十六年一月とさせていただきますので、お間違えのないようお願い致します。

日 時：平成十六年一月十七

日 土 午後二時

場 所：サナモア光線治療院

三階会議室

テーマ：糖尿病に関連した話題

治療院紹介

このコーナーでは、新規に光線治療院を開業された先生方や、既に開業されてご活躍中の先生方を紹介させて頂いております。

石本治療院 (写真上)

(平成十四年四月開院)

電話：〇二一七九一一四九五

住所：札幌市東区東苗穂一三条

三丁目一九一八

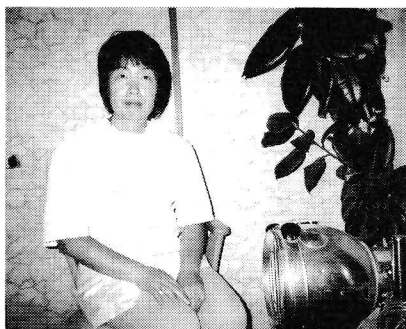
交通：地下鉄環状通東から市営

バス東苗穂一三三下車

徒歩五分

院長：石本路子先生

一言：十五年前のサナモア光線療法との出逢いが、私の体を健康に導いてくれま



石本路子先生

◆ 募 集 ◆

サナモア光線治療師

当協会の趣意に賛同され、サナモア光線療法の普及にご協力頂ける方、治療院の開業を検討なさりたい方は、お問い合わせください

サナモア光線治療院

〒153-0063

東京都目黒区目黒1-23-11

TEL (03) 5759-3710

FAX (03) 5759-3720

住田光線治療所 (写真下)

(平成十五年五月開院)

電話：〇三三六九一六三三

した。この喜びを多くの人に分けてあげられたらと思っております。

住所：東京都葛飾区東立石三一

八一

交通：京成線立石駅下車徒歩八分

院長：住田博子先生

一言：私とサナモア光線療法との出会いは三十九年前のことです。以来、色々な体験をさせて頂きましたが、自然治癒力を高める光線療法の素晴らしさを知って頂きたいと思い、開院の準備を進めて参りました。この程、念願の治療院を開院することができましたので、一人でも多くの方の疾病治療や健康増進にお役に立ちたいと願っております。



住田博子先生

治験例報告

アルコール性肝炎が

光線療法で改善した

神戸市 ウエノ光線療研

上野 健太郎氏報告

症例 50歳 男性 会社員
症状 仕事の上で飲酒の機会が多いことに加え、生来酒好きだったことからほとんど毎晩日本酒五合程度飲んでた。昨年暮れ、急に食欲が低下し、全身倦怠感を認め、仕事に対する意欲も湧かなくなってきたため、家人の勧めで人間ドッグに入り精密検査を受けた。そこで、胃炎と血液検査で肝機能異常を指摘されアルコール性肝炎と診断された。その際、医師からは直接肝臓に効果のある薬はなく、飲酒制限を含めた生活習慣の改善が重要であるとの説明を受け、近医への通院を開始したが、肝機能を表す数値は良くなったり悪くなったりの繰り返しであったため、友人の紹介で来所した。

療法経過 治療はBDカーボン

で一号集光器を使用して、上腹部を前方より20分、側方より20分の照射で始める。その後、腹部10分、背部10分、腰部10分照射。次にABカーボンで、足裏30分、膝10分を照射した。翌日からは自宅治療を始めるが、その際、カーボンはADカーボンとBDカーボンを交互に使用して、右上腹部(肝臓)は朝晩二回照射

治験例報告

変形性膝関節症の痛みと腫れが消失した

福岡県春日市 育美健康光線療研

症例 62歳 女性

症状 一日中立ち続けの仕事をため下半身に負担がかかり、以

するよう指示した。治療開始一週間後に、腹部の不快感も消失し、食欲もでて全身倦怠感も軽くなったとの報告を受けた。さらに、その後、定期の血液検査で肝機能を表す数値は正常範囲内に戻り、順調な回復を示していると医師から説明された。最近になり、全身倦怠感も感じなくなったため、しばらく休んでいたジョギングを再開したが、気力、体力が戻ってきて、元の元氣な身体になったという自信が湧いてきた。現在は、生活習慣にも注意しながら光線療法を毎日続け仕事に励んでいる。

(TEL 084-333-1135)

山崎 いく子氏報告

前から膝関節痛で悩んでいた。

最近、両側の膝関節痛がさらに増強し、関節はばんばんに腫れ

あがり、歩行も困難となってきたので、病院に行っては滲出液を抜くということを繰り返ししていたが、知人に光線療法を勧められて来所し、その日に光線治療器を購入して自宅治療を開始した。

療法経過 治療はABカーボンにて、足裏、足背、膝、膝裏、腰部、股関節、そけい部、背部、後頭部、腹部を各20分照射。次に第一集光器を用いて、膝を前後からと内外側から各20分照射するよう指導した。また自宅治療で用いるカーボンは、当初ABカーボンで始めてから、BCカーボンに変え、膝の前後、股関節、そけい部、腰部を各20分照射してから、第一集光器

治験例報告

酒さに対する効果的な

光線の照射法

川崎市 東京光線治療院

海渡 一二三氏報告

症例 31歳 女性 主婦
症状 約一年前から朝、洗顔し

た際に鏡を見て自分の顔が少しへ5ページへつづく

を用い、膝の前後、内外側を各30分照射するよう指示した。もしも陽性反応のため痛みが増強した場合には、BBカーボンに変えて痛みが軽くなるまで照射を続け、また膝関節がこわばるようならBDカーボンに変えてみるよう指示した。治療は片足だけでも数時間かかるので、とにかく根気よく続けることが重要であると説明したところ、患者は熱心に光線療法を続け、約三か月後には痛みと腫れは引いてほぼ完治された。今後は、健康維持のためにも膝関節だけでなく、基本照射を主体とした光線療法を続けるように説明した。

(TEL 092-)

五八一二〇三九
五七二一五七三

へ4ページからつづへ

赤みを帯びていることに気が付いたが、そのうち元に戻ると思っていた。しかし、なかなか元の顔色に戻らないため病院を受診したところ酒さと診断され、難治であるとの説明を受けた。その後、知人の紹介で、サナモア光線治療器を購入し自宅での治療を開始。しかし改善を認めなかったため、電話で問い合わせを頂いた後、当院での治療を受けるために来院した。初診時、患者の顔面は鼻の周囲と両側頬にかけて発赤しており赤ら顔を呈していた。

ボンを使用した。光線治療器は四灯使用し、頸部照射の場合のみ一号集光器を使用した。最初、側臥位にて顔面、腰部、大臀筋、膝に10分の照射を施行後、腹部、後頭部、足裏、足関節に10分照射した。次に、仰臥位にて右顔、左頸部（甲状腺）、右股関節、左膝側面を10分照射。さらに、左顔、右頸部（甲状腺）、左股関節、右膝側面に10分照射して初回の治療を終えた。その際、患者は鏡を見て自分の顔の赤みが薄くなったので喜ばれていたが、以後は、自宅にてABカーボンで継続治療することによって改善すると説明した。

(TEL 044-731-5067)

治療例報告

肝細胞癌に対する

光線療法の効果

宮城県塩釜市

サナモア光線治療院

門間 武夫氏報告

症例 65歳 男性

症状 数日前から、全身倦怠感が強く、食欲も低下し、しゃっ

くりも止まらず、こむら返りが一日に二十回位おきて不眠となったため、平成九年三月、近くの

病院を受診。精密検査の結果、肝臓内に直径4cmの腫瘍が認められ、腫瘍マーカーも四五〇〇と上昇しており肝細胞癌と診断された。そこでは、抗癌剤を処方され、担当医から、自宅でもしも病状が急変するようならすぐ連絡するようにと説明を受け退院となったが、セカンド・オピニオンを求めて、導く病院を受診したところ同様の説明であった。その後、患者は途方にくれていたが、知人から光線療法のことを聞き、藁をもすがる思いでサナモア光線療法の話聞きに来院。光線療法が自身のもつ自然治癒力を最大限に高める治療法であるという説明に納得され、是非ともこの治療法にかけようという気持ちがあふく。早速治療開始となる。

頻度が少なくなり、二週間経過した頃には、体調が改善してきて、食欲もでてきた。さらに一か月経過した時点では、身体全体に出ていた赤い斑点も消失した。この間、医師から処方された抗癌剤は一切服用していなかったが、平成十年三月一日に病院で再度精密検査を受け、以前、直径4cmの大ききと言われた腫瘍は直径5mmまで縮小しており、腫瘍マーカーも40以下に減少していた。担当の医師は、「抗癌剤が効いたのかな？」と

全自動光線治療器 はつらつさんと ジョイントカーボン

サナモアはカーボンの芯剤を完全燃焼させることで最も効果のあるスペクトルを含む光線を放射するように、正面からカーボンをぶつける正面発光式を採用しています。そのため手動式のサナモア7号器・8号器では照射時間が十分強で切れ、長時間の照射にはご不便をお掛けしてきまして、この点を改良したのが全

自動光線治療器はつらつさんで、照射時間は5分刻みで60分まで設定でき、時間に合わせジョイントでできるサナモアカーボンをつないでおけば、自動的にカーボンを送り安定した光線を放射します。

なおはつらつさんご使用の際には、安全性を保ち、事故を未然に防ぐため、ジョイントカーボン以外のカーボンは絶対に使用しないで下さい。使用上の注意は、「はつらつさん取扱説明書」をご覧ください。

独り言を言っており、その言葉聞いた時、患者は飛び上がりたほど嬉しかったそうです。それから二か月、四月三十日まで治療を続け、五月からは光線治療器を三台購入し、自宅治療を開始。現在に至るまで四年半、身体的には全く異常はなく、元気に生活されている。

(TEL 011-364-9445)

サナモア光線協会 体験記

目標は楽に歩けるようになることです。

広島県 馬〇原〇〇子様

今回、初めてお便り致します。また「健康と光線」を何時もありがとございます。私は、以前から骨粗鬆症による腰痛に悩まされ腰痛ベルトを使用したり、痛み止めを服用したりしておりました。また昨年の九月より、左膝に水が貯まり今年の一月までお医者さんで水を抜いてもらっていました。現在左膝が十分に曲がらないため正坐はできませんし、膝関節は変形し〇脚となっていました。ため歩行が思うようにできず、立ったり坐ったりするのも困難です。自宅

での光線治療は、A Bカーボンにて、腰10分、腹10分、膝10分、膝裏10分、足裏10分といった具合で毎日行っておりませんが、痛みが軽くなったため、以前常用していた痛み止めは現在使わなくても大丈夫です。今のところは散歩もできず、自転車に乗ることもできないため、ほとんど運動はしていませんが、せめて歩くことが不安なく楽にできればと思います、これからもサナモア光線治療を欠かさず続けるつもりです。

関節リウマチによる 痛みが和らぎました

京都府 小〇〇様

昨年の秋、瀬戸内海の小さな島へみかん狩りを兼ねた旅行をした際、家内が満足に正坐できないのを見ておられた民宿の奥さんが、ご自宅からサナモア光線治療器を出してこれ光線療法をはじめて体験させて頂きました。家内は、長年にわたり慢性関節リウマチに苦しんできましたが、病院の薬には副作用があり恐いので、健康食品や薬湯通いでごまかしごまかしこま

で参りました。しかし、今年の梅雨入り頃から徐々に体調が悪くなり、気持ちのさえない状態が続いておりました。その時、光線療法をはじめて体験した時の気持ち良さを思い出し、光線治療で少しでも良くしたいと願い、神戸のウエノ光線さんをご紹介いただき、今回お世話になった次第です。

光線治療器はまだ使い始めて十日ほどですが、光線をかけていると身体が芯から温まり、大変気持ち良く痛みも和らいでまいります。毎日、朝、昼、晩と照射しておりますが、これからも続けたいと思っていますので、よろしくお願い致します。

サナモア体験記募集

サナモアの効果は体験しないと信じられないところがありますが、実際に効果を体験した体験記ほど説得力のあるものはありません。ついでに体験記をお送りくださいますよう、お願いいたします。

なお掲載させて頂いた方には、薄謝を贈呈致します。



サナモア光線協会

趣意書

サナモア光線協会は、太陽光線こそ健康を増進する自然の恵みの源泉であり、生命力を高めて病気の予防、治療に効果があるとの観点に立ち、太陽光線に近似したフルスペクトル光線を放射するサナモア光線療法の啓蒙、普及活動に努めることで、国民の健康、福祉に貢献します。

サナモア光線協会は、サナモア光線療法に対する認知と評価を高めるため、一、季刊紙、「健康と光線」の発行、二、サナモア光線治療師の募集と育成、の事業を行います。

サナモア光線協会

医学博士 宇都宮 光明

「健康と光線」の購読者を募集します。また事業の詳細はお問い合わせ下さい。

〒153-0063 東京都目黒区目黒4-6-18

サナモア光線協会 TEL (03) 三七九三―五二八― 三七二―五三三二

(本紙の無断転用を禁止します。)